

地域懇談会を開催

— regional meetings —

市長が地域の皆さんと市政について語り合う地域懇談会は、7月14日から8月28日にかけて行われました。市内14カ所で行われた懇談では、地方創生をはじめとして、質問・意見・要望などさまざまな話がありました。その懇談の経過を報告します。



定住促進・地方創生※

Q. 平成27年度に入り人口が増えてきているとのことだが、以前聞いた話では、若い人たちは減っていて高齢者ばかりが増えてきているとのことだった。

A. 本宮市から一番多く転出している先は郡山市で20代前半から30代前半の方が多く、現在、郡山市からの転入者の方が多くなっている。その年代は30代半ばから40代前半の方が多く、若い世代は都市部のアパートやマンションに住み、一戸建てを建てる際に本宮市に住む方が多いのではないかと。本宮市は地価が安く、

郡山市の郊外よりも本宮駅、五百川駅があり、便利であるということでは住居を持つということではないか。保育所、幼稚園に子どもを預ける方も増えてきている。分析は必要だが、みずい公園やプリンス・ウィリアムズ・パークや

これから建設する屋内運動施設など、遊ぶところが数多くあり、楽しいところだ、本宮に住んでみようとの声が若い方から出ているのは間違いない。どこに住む場所を用意できるかが市としてやらなければならないところである。

Q. 市では五百川駅前の広場の整備の計画を総合計画にも示

しているが、五百川駅の前では、施設の整備で終わってしまう。周辺地区は立地企業も多いが、市外から通勤している方も多し。また、郡山市高倉の県営住宅の方も五百川駅を利用して。その方々に本宮市に住んでもらうためにも、五百川駅を核とした、

広いエリアでの宅地造成や人口増対策を展開するとともに、大きな面的な整備計画が有効であると考ええる。

A. 五百川駅周辺は、可能性を持っている。本宮IC前の土地の利用についても、今後の整備計画について考えて行かなければならない。整備計画の検討にあたっては、今後、

課題も含めて、地域の方々の意見や要望を伺っていききたいと考えている。

Q. 本宮の子育て環境は整ってきているとは思いますが、未婚の方が多いと感じる。メディアなどでもお見合いが行われているように、市でも婚活に取り組んでみてはどうか。

A. 結婚支援は難しい問題であると思うが、必要性は感じており、他の取組みを参考に、市民の皆さんからもお知恵をいただきながら、効果的な方法を検討していきたい。また、取組みを進めていくうえで、メディアの力を活用すること重要と考える。

除染・風評被害

Q. 全量全袋検査はいつまで実施するのか。

A. 検査は今年も実施する。当面は続く見込みである。検査の結果を公表し、安全性を発信する。

Q. 住宅除染。27年度全地区完了を目指しているとのことだが、その具体的な計画を知りたい。

A. 現在、糠沢地区がまもなく完了。荒井・本宮地区を進めている。9月に青田・岩根地区の説明会を開催し、準備が整い次第着手したい。

※「地方創生」は、人口減少に歯止めをかけるため、地方が主体的に行う地域活性化の取り組みです。本宮市では、2060年までの人口の将来展望を描く「人口ビジョン」と、5年間の具体策をまとめる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を10月中に策定することとしています。



Q. 空き家になっていて除染がされていないところがある。除染はできないのか。

A. 空き家も個人の所有物であり所有者の同意が無いと作業はできない。希望しない方へは、再度案内をさせていただ

いている。空き家対策の中でも検証していきたい。

Q. 側溝について、震災以降清掃もしておらずそのままになっている。どのように進めるのか。

A. 除染は、まず住宅除染を最優先に進めている。またこれから住宅除染に入る地区もある。住宅除染完了後、道路除染に入る。側溝は、道路と一体的に進める。道路除染については、どう進めれば効率的かを検証するため、和田地区でテスト除染を実施した。もう少しお待ちいただきたい。

地域振興

Q. 本宮市は県の中心にあり、良い場所にあるが、観光面が弱い。通過地点になってしまっている。

A. 市内の主な観光地として、蛇の鼻や岩角山などがある。アサヒビール園には多くの方が訪れている。また、スマイルキッズパークも屋内だけでなく年間4万人位の利用者であったが、屋外が完成し、年間7万人位になっていく可能性がある。プリンス・ウィリアムス・パーク周辺の交流人口が増えているので、これを生

かしていかなければならぬ。点の観光は弱い。これを線にし、面にしていくことが大切である。情報発信をし

ていく。市で実施している「ちょっと素顔のなみやの旅」は人気がある。名所、旧跡、自然があり、市内外から多くの方が訪れている。これを生かす方法も十分検討していきたい。本宮市、二本松市、大玉村で「まっぶる」を作成した。本宮単独で難しい部分もあるので、観光素材のある近隣自治体とも連携しながら進めていく。

Q. ふるさと納税について、本宮市の取り組みは。

A. 平成26年度は、約650万円ほどの納税をいただいた。今年の4月からは、納税していただいた方へ感謝の気持ちとして本宮市の特産品を返礼品としていただいている。返礼品を過度にならないようにしていきたい。また、返礼品について、友好都市の上尾市と

合わせて進めていきたい。

Q. 友好都市(災害時応援協定)を締結した埼玉県上尾市と、職員・市民・子どもたち・教員などの交流をしては。計画はあるのか。

A. 震災が機会となり、上尾市や全国へそのまち協議会の自治体と災害時応援協定を締結し、その後、上尾市とは友好都市協定を締結した。子どもたちの交流としては、野球・サッカー・剣道・駅伝など交流事業を実施している。また、職員の交流も実施している。さらには、シルバー人材センター・老人クラブ・民生児童委員・文団連などの交流も行っている。今年はお祭り交流で奉賛会が上尾の夏祭りに参加してきた。農産物の物販も年4回、上尾市で参加している。埼玉県内にも広がりつつあり、昨年は、米6トン・長芋600キロ、清酒など購入いただいた。交流活動については、もっと発信していく。